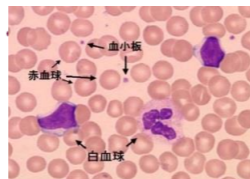


検査科便り 第4号

こんにちは、検査科です！

4月からの今号では、『血液と輸血の検査』についてと、『ABI・重心動揺・肺機能・脳波・神経伝導速度の検査』についてです。

血液検査



血液一般検査: 赤血球・白血球・血小板の数や形態異常が無いか、また赤血球中に含まれるヘモグロビン濃度などを検査します。白血球にはリンパ球や好中球などの種類があり、それらの割合も見ています。貧血の有無や種類、炎症の状態、血液疾患がないか分かります。

凝固検査: 血液中には出血を止める働きや、出血が止まった後に出来た血栓を溶かす働きが存在しており、それらの機能について検査します。血の止まりやすさが分かるので、血液をサラサラにする薬を飲んでいる方には、薬の効果を評価するのに役立ちます。

輸血検査



血液型検査: 基本的に、血液型ごとに抗体や抗原の種類が決まっています。その為、血液中にどんな抗体や抗原を保有しているか調べることでA・B・O・AB型のどの血液型か分かります。

不規則抗体検査: 不規則抗体とは、A・B・O・AB型以外の血液型に対する抗体のことです。元々持っている人もいますが、ほとんどが輸血や妊娠などが原因で後天的に作られます。抗体の種類によっては輸血する際に副作用を引き起こす可能性があります。そのため、輸血の可能性がある場合は前もって不規則抗体の有無や種類を調べます。

交差適合試験: 輸血する血液製剤が患者様に適合したものであるか、製剤と患者様の血液を使って検査をします。輸血による副作用を防止するために行います。



興味のある検査に関しては、診察時に医師にご相談ください！



生理検査

当院では、前号で紹介した心電図検査や超音波検査以外にも、いろいろな検査が出来るのをご存じですか？簡単ではありませんが、紹介させていただきます！

ABI



両腕と両足首に血圧計を巻き、心電図の電極と心音マイクを装着し、両腕と両足首の血圧の差や脈波の伝わり方を見る検査です。この検査は、腕と足の血圧の差から、特に下肢動脈の狭窄や閉塞の程度が分かります。また、心臓の拍動(脈波)が動脈を通じて手や足まで届く速度を見ることで、血管の硬さが分かります。この検査を行うことで、動脈硬化の程度や、早期血管障害を検出することができます。

重心動揺検査

開眼時・閉眼時の直立姿勢に現れる重心の揺れを記録する検査です。めまいなどの平衡障害を起こす原因は耳の病気や脳腫瘍など様々あります。この検査は、原因が耳にあるのかそれとも頭にあるのか鑑別することができ、病気の経過観察や治療効果の判定をします。



肺機能



息を吸ったり吐いたりを繰り返してもらって、肺の大きさ・空気を出し入れする換気機能・一気に吐き出せる空気の量を調べる検査です。この検査は、気管支喘息などの肺の病気の診断に重要な検査で、重症度評価や治療効果の判定にも使われます。また、手術の時の麻酔法の選択にも利用されます。

脳波

脳細胞の微弱な電気的変化を頭皮上に付けた電極で記録し、脳神経の働きを調べる検査です。測定中は光刺激などの負荷を与えながら異常な波形が出ないか記録します。この検査は、てんかんの診断と治療経過の判断に重要な検査で、その他にもアルツハイマーや脳炎などの診断に使われます。



神経伝導速度



皮膚の上から手足や顔面の神経に電気的刺激を与えて、筋肉や神経に生じる電気的活動を記録し、その伝導速度と振幅を調べる検査です。この検査は、手足のしびれ・脱力感といった末梢神経の病気が疑われる患者さんに行われ、神経や筋肉に疾患がないか調べる事が出来ます。